

求め続ける心が「創造」と「感性」を呼ぶ

良い特定解は、どうしたら見つかるのでしょうか？

『正法眼蔵随聞記』に、「竹の声に道を悟り（智閑和尚が庭掃除をしていたときに瓦のかけらが竹に当たって悟った故事）、桃の花に心を明らむ（志勤禪師が一面に咲きだした桃の花を見て悟りを開いた故事）。だからといって、竹そのものに優劣とか迷い悟りがあつたわけではなく、桃の花にどうして浅い深いや賢い愚かということがあろうか。

花は毎年毎年咲くけれども、それを見る人がすべて悟りを開くわけではない。掃除をしているときに石が飛んでいって、竹にぶつかって音を立てることはしばしばあるが、聞く者すべてが悟りを開くわけではない。ただ長い年月座禅をしていた功績によつたり、道を求めていこうとする励みによつて、悟りを得ることができる。これは竹のせいでもない、花のせいでもない」とあります。つまり、何事もまず求め続ける心が大切だと言うことです。

思考技術とは、ある意味では情報処理の問題です。ありきたりの情報であつたとしても、そこから何かを感じ取り、それらを独自の新鮮な視点で組み替えてみるのがスタートとなります。

そんな思考の前提となる情報は、心の中に真剣に求めるものがあれば、他人にはなんでもないふとした情報だろうと、素晴らしいヒントを語りかけてくるはずです。それが創造性や感性の源となります。